

「長野県の金融経済動向」（3月）の前回との比較

2016年3月

2016年2月

（総論）

長野県経済は、生産に新興国経済の減速の影響などがみられるものの、緩やかに回復している。	長野県経済は、生産に新興国経済の減速の影響などがみられるものの、緩やかに回復しつつある。
---	--

（各論）

公共投資	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。
住宅投資	底堅く推移している。	底堅く推移している。
設備投資	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。
生産	新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。	新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

（生産）

半導体関連・電子部品等	スマートフォン向けの増勢一服のほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	スマートフォン向けの増勢一服のほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
自動車関連	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
機械・同関連部品等	工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響がみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。	工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響がみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。
飲料	弱含んでいる。	弱含んでいる。

(個人消費)

大型小売店 売上高	1月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。	12月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。
家電販売	1月は前年を上回った。	12月は前年を下回った。
自動車販売	2月は前年を下回った。	1月は前年を下回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負額	1月は独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、県、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。	12月は独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、県、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	1月は分譲、貸家が増加したものの、持家が減少したことから、全体では前年を下回った。	12月は分譲が増加したものの、持家、貸家が減少したことから、全体では前年を下回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、1月は新規求人数が増加していることから、回復している。所得面では、12月は一人当たり名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。	有効求人倍率をみると、12月は新規求人数が増加していることから、回復傾向にある。所得面では、11月は一人当たり名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	1月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。	12月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。
-------------------	------------------------------------	-------------------------------------

2. 金 融

貸 出 金	1月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	12月は前年を上回った。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きがみられている。個人向けは、前年を上回って推移した。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	1月は個人・法人預金ともに、前年を上回った。	12月は個人・法人預金ともに、前年を上回った。